

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12587

研究課題名（和文）地域資源の持続的管理を支える諸資本間の関係に関する地理学的研究

研究課題名（英文）Geographical study on the relationships among several types of capitals for sustainable management of local resources

研究代表者

寺床 幸雄（TERATOKO, Yukio）

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：90757767

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は地域資源の持続的管理における諸資本間の関係について考察した。地域資源の管理は、住民の日常的な生活と定期的な共同作業を基礎として持続しており、その中で諸アクターおよび地域の社会関係の中に技術と知識が蓄積されている。さらに、地域のおかれた社会・経済的文脈や地理的位置によって、地域資源の活用の方向性も多様である。必要に応じて地域外からの支援を得つつ、地域に蓄積された資源管理の技術と知識を活用・伝承することが、生活と産業を維持するための諸活動を安定して継続することにつながる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、人口減少と高齢化の進む農山村において、今後の地域資源の管理のあり方を考える際の基礎的議論に資すると考えている。農山村の共同的な社会関係は、その存在が自明視されたり、弱体化が懸念されながらもその実態が十分議論されていない場合も多かった。本研究では社会関係資本をはじめとする諸資本の関係に注目することで、具体的に地域資源管理の持続性を議論するための基礎的知見を提示した。今後の各地域における地域資源管理を議論する際に、地域で共有された技術や知識、地域に賦存する資源とその管理状況を把握する枠組みを提示することにもつながると考えている。

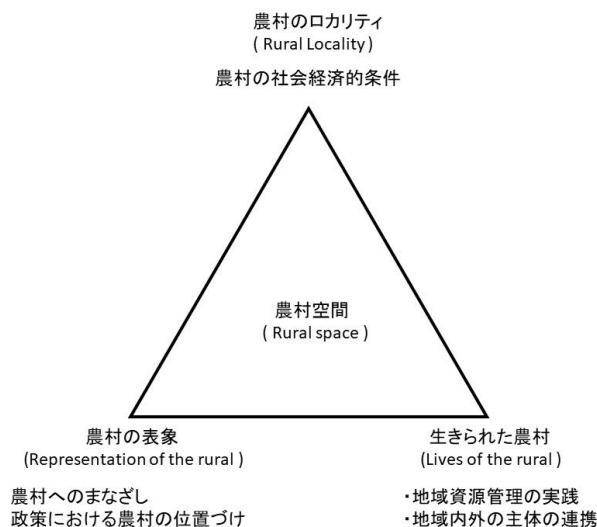
研究成果の概要（英文）：This study examines the relationship between various forms of capital in the sustainable management of local resources. The management of local resources is sustained based on the daily lives of residents and regular collective work, which accumulates technology and local knowledge within the social relationships of actors and the community. Furthermore, the utilization of local resources can take diverse directions depending on the social, economic, and geographical context of the region. By obtaining support from outside the community and utilizing and transmitting the technology and local knowledge of resource management accumulated within the community, it is possible to ensure the stability and continuity of activities necessary for sustaining livelihoods and local industries.

研究分野：人文地理学

キーワード：農業 農村 社会関係資本 地域資源

1. 研究開始当初の背景

人口減少や高齢化などを背景として、農山村の生活を地域外の人々との連携も含めて見直す方向性が示されるようになった。こうした視点は、国内、海外の農村地理学における地域の「社会関係」への注目の高まりというかたちで現れている。申請者は、地域の産業・生活の持続における「社会関係資本」の役割について研究を進めてきた。しかし、地域資源の持続的管理を考える場合、他の形態の資本(人的資本・経済資本など)との相互関係についても注目する必要がある。



第1図 研究の枠組み

(Woods 2011 をもとに作成)

2. 研究の目的

本研究は、中山間地域における地域資源管理を支える諸資本(社会関係資本、人的資本、文化資本、自然資本、経済資本)の相互作用について空間論的視点から明らかにすることを目的として実施した。

3. 研究の方法

農地・山林の管理や地域でのイベントの開催などについて、(1)農村のロカリティの変容(農村の社会経済的位置づけの変化とそれに基づく実践)、(2)農村をめぐる表象(農村に抱かれるイメージ)の現実との一致・不一致、(3)生きられた農村(生活者が自身の社会・空間的位置づけを解釈したうえでの生きられた経験)の相互作用に注目し、農村空間の生産の理論に基づき、関係論的枠組みから分析した。

研究では、まず農業集落カードなどの小地域単位での統計データの分析と、地図資料、行政資料等による地域の実態把握を進めた。次に、地域において聞き取り調査、現地観察を実施した。聞き取りでは、地域資源の管理や地域行事の実施にあたってどのような社会関係が形成されているのか、そうした関係がその他の諸資本のあり方とどのように関わっているのかを把握した。

4. 研究成果

(1) 方法論的検討

英語圏を含めた関連文献を収集・整理し、関係論的農村地理学の研究動向をレビューした。人々の移動と地域間の人々の関係が変容するなか、地域の持続的発展や内発的発展を議論する際にも、社会関係資本の重要性が指摘されるようになってきている。また、各国の地域的文脈により、そうした社会関係の役割にも差異が見られる。また、他の形態の諸資本との関係を考える場合にも、日本における資源管理の文脈と欧米の議論との共通点、相違点をふまえた議論が必要である。特に日本の場合、アジア的な地域内の協働の文脈と、経済発展による産業・生活の変化という二重性をふまえる必要があることが示唆された。

(2) 現地調査に基づく地域資源管理の実態分析

新型コロナウイルスの感染拡大により十分な調査を行うことができなかったものの、複数の農山村において地域資源管理の実態調査を行った。熊本県水俣市では、人口減少が進む中での地域社会の共同作業の再編について継続的に把握した。担い手の不足により省略されていく作業がある一方で、基礎的なインフラの管理や農地・水路等の管理作業は継続的に実施されている。また、地域資源の空間的配置に関する知識が地域内で共有されることにより、災害等の発生時にも迅速に復旧の対応が可能となっていた。とくに、そうした緊急時の対応では地域内での適切な役割分担によって対応がなされており、日常的なコミュニケーションと資源管理作業の継続が、安定した地域資源管理の実現に寄与していた。福岡県東峰村および長崎県平戸市においては、地域資源を活用した地域イベントや観光案内の実施について詳細に把握した。研究対象地域では、棚田などの農地が本来の生産活動にとどまらず地域振興や観光案内の場となっている。それらの活動は、地域内の旧来の社会関係を基礎としつつ、地域外の諸アクターとの協働により実施されている。

これらの地域資源管理の実態について研究枠組みをもとに考察した。まず、農村のロカリティの変容は、地域資源の活用の方向性に影響を与えている。特に、農業などの生産活動の位置づけが変化する中で、地域の基礎的な生活との関わりで地域資源の活用のあり方に差異が生じていた。農村をめぐる表象は、そうした地域の変化に直接的・間接的に影響を与えている。すべての農山村の地域資源が観光資源化され得るものではないため、各地域の実情に即して地域資源の持続的管理が検討される必要がある。さらに、生きられた農村における生活者の日々の実践は、地域資源の持続的管理において重要な意味を持つ。必要に応じて地域外からの支援を得つつ、地域に蓄積された資源管理の技術と知識を活用・伝承することが、生活と産業を維持するための諸活動を安定して継続することにつながるといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 寺床幸雄	4. 巻 72
2. 論文標題 2019年学会展望 村落	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 253-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4200/jjhg.72.03_253	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高木彰彦・寺床幸雄	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 飛地と越境行政	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 越境地域政策研究論集	6. 最初と最後の頁 59-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 寺床幸雄
2. 発表標題 関係論的視点からみた 長崎の村落地域の再編と新たな展開
3. 学会等名 人文地理学会第293回特別例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 TERATOKO Yukio
2. 発表標題 Localities, Representations and Daily Lives in Rural Community-A Case Study in Kasuga Village, Nagasaki Prefecture
3. 学会等名 the 14th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukio TERATOKO
2. 発表標題 Possibilities of new social relationships and social capital in Japan's rural areas: In relation to human security
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 荒木一視・林紀代美編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 264
3. 書名 食と農のフィールドワーク入門	

1. 著者名 平岡昭利編, 寺床幸雄・浅見良露・五十嵐勉・石川雄一・岩動志乃夫・出田和久・浦山佳恵・柿原昇・川合泰代・川上淳・北川博史・小松原尚・酒井多加志・作野広和・篠原秀一・助重雄久・鈴木康夫・須山聡・宗建郎ほか著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 海青者	5. 総ページ数 134
3. 書名 読みたくなる「地図」地方都市編 日本の都市はどう変わったか	

1. 著者名 日本地理学会編, 寺床幸雄・David Sprague・相澤亮太郎・青木賢人・青木久・青山雅史・赤坂郁美・秋元菜摘・秋本弘章・秋山千亜紀・秋山祐樹・浅野敏久・網島聖・荒井良雄・荒木俊之・荒木一視・荒又美陽・有馬貴之・飯嶋曜子・飯島慈裕・井岡聖一郎ほか著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 818
3. 書名 地理学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<https://research-db.ritsumei.ac.jp/rithp/k03/resid/S001317>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------